

発行 社会福祉法人 聖友ホーム
 聖友学園（児童養護施設）
 〒166 杉並区阿佐谷北3-28-19
 ☎3338-1844 FAX3338-1894

ひーちっこ



（題字 りんりん 4才）

幼稚園や学校のお友達と一緒に
 楽しい一夜
 クリスマス会（12月25日）

目次 ● “思いやりの心”（元 杉九小校長 井上治男）…………… 2
 ● ふわふわー ・ある日のできごと ・詩「ひまわり」他…………… 4
 ● このゆびとまれー 感謝しています ボランティアの皆さん…………… 6
 ● おみせやさんー 越前屋米店…………… 7
 ● e t c …………… 8

思いやりの心

元杉並区立杉並第九小学校長

井上 治 男

「近頃の子は利己的で、思いやりの心に欠けている。」という声をよく聞きます。「そんなことはないよ！」と即座に否定したいところだが残念ながら自信がありません。

在職中も嘱託員という現在の立場からも学校で子どもたちを見てみるとそんな傾向が随所に見られるからです。

学校でも家庭でも、思いやりのある心優しい子に育てようという願いは強いし、それなりの努力はしているはずだが、一朝一夕で育つ速効的な方法もないし、そう簡単なことではないのです。

思いやりの心を育てるのには、まず、思いやりの心とは、どんな状態の時におこる感情なのかを分析し、子どもたちをそんな状態の環境におく必要があると私は思うのです。

思いやりとか、いたわりの心は結論から先にいうと、自分より優位の相手には湧かない気もちなのです。

これは大人でも同じことです。自分より社会的地位も高く財力も権力もある相手に思いやりの気もちはおきません。お金もちだが家庭的に恵まれないとか、地位も財力もあるが体が弱く、年中病院通いであるとか、自分より劣る要素を相手に見つけたして始めておこる感情なのです。

意地悪な言い方をすれば、思いやりの心は弱者に対する優越感の変形といってよいでしょう。それでは、子どもたちに優越感のもてる弱者を与える環境をつくれれば、思いやりの心が育つことになるが、それが近頃の子どもの立場では、なかなか難しいことなのです。

まず、家庭内では核家族で一人っ子が多く自分は両親の愛情を一身に受けて育つが、自分は、愛情を注ぐ相手がありません。

地域社会にでても、異年齢集団がなく、年下の子をいたわりながら遊ぶなどの体験が皆無といってよいような状態です。

その点、聖友学園の子どもたちは、毎日、

たて割り社会の中で生活しているの、年上の子に世話になった分を、自分より年下の子に親切にしてやるなど、さほど努力もせず知らず知らずの内に、思いやりの心が育っているのです。

以前、学童クラブの子どもたちを見て、ある母親が「あの子たち鍵っ子でかわいそうですね。」とおっしゃたので、「いや、あの子たちは望んでも外の子には求められないよい環境にいる。自分に孫ができたならなんとかして学童クラブに入れてもらうよ」と答えたことを思い出す。

子どもにとって弱者の立場にあるものは年齢によって違ってくる。お年寄りをいたわりましょう！と呼びかけても小学校低学年の子ではピンときません。一、二年生の児童から見るとお年寄りも弱者ではないからです。いたずらをして叱られる隣のお爺さんはこわい存在でこそあれ、決して弱者ではないのです。それが高学年児童からみると、バスの乗り降りに苦労しているお年寄りは弱者であって席をゆずる気もちが、人にいわれなくとも自然におこるのです。

そんなことで、思いやりの心を育てるのには、弱者を与えることが不可欠なのが、学年によって配慮する必要があります。小学校でいえば、前述のようにお年寄り



は弱者とならない。一・二年生の子どもたちにとって弱者となるのは、水をやらないと枯れてしまう草花や小鳥・小動物などであらう。

学校でも小鳥や小動物を飼育しているが低学年児童は眺めるだけで、餌をやったり、だいたり直接手をだすことはできない。

飼育係を高学年でなく低学年にしたらどうだろうと思う。家庭でも、住宅事情で小動物はおけないこともあるが、せめて金魚ぐらゐは子どもにも責任をもたせて飼うことをおすすめしたい。

学校でも低学年教室で小鳥を飼って世話させたいのだが、子どもにはさまざまな体質があって喘息の子などには小鳥は絶体駄目なので飼うことができないのです。

高学年の児童には、動植物の世話の外に、低学年児童との交流をできる限りつくる工夫をしている。

この組み合わせも六年生と二年生とか五年生と一年生などが効果的で、三・四年生などの組み合わせでは失敗する。一年違いぐらいでは、低学年でも体も大きく腕力もあり弱者とはならない子がいるからだ。

テレビで放映される貧しい国々の子ども達の生活や災害をうけた被災地の人々の生活なども幼児から見ることがよいようです。

「かわいそう!」と感じるだけでもよいが、自分の幸せを実感し、「お小遣いから義援金を!」などと行動に移す子もでくることがでしょう。

思いやりの心を育てることは日々の小さな実践の積み重ねです。根気の必要なことですが「三つ子の魂」で幼児からの積み重ねがより効果的なのです。

家庭・地域・学校と三者が連携をとりながら心豊かな子どもを育てていきましょう。



昨年十月『ぴーちっこ』の第一号を発行しほっとしていたら、瞬間に第二号を送りだす時期になってしまいました。『ぴーちっこ』は児童の健全育成に役立つ情報のメディアになりたいという希望から、いろいろの分野でご活動の方に執筆をお願いして、児童にかかわる「いま」の問題を考えていきたいと思っています。

今回は、元杉並第九小学校長・井上治男先生にお願いし、「思いやりの心」についてご執筆をいただきました。大方のご意見ご感想をお待ちしております。

聖友学園長 梅澤文治

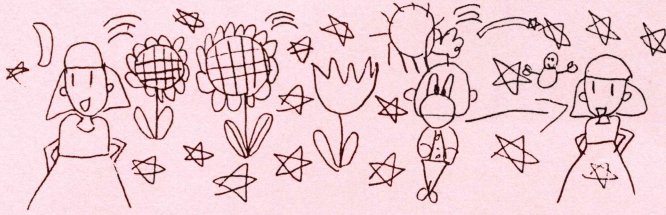
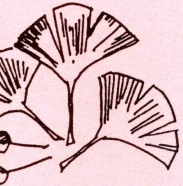
ふわ

ふわ

『ひまわり』

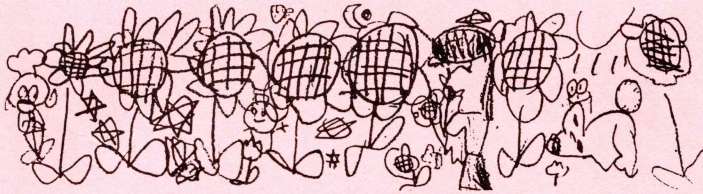
裕一

ひまわりは
太陽に向かってさく
ひまわりは
くしょんくしょんに
なると
たねがとれる
ひまわりは
またさく



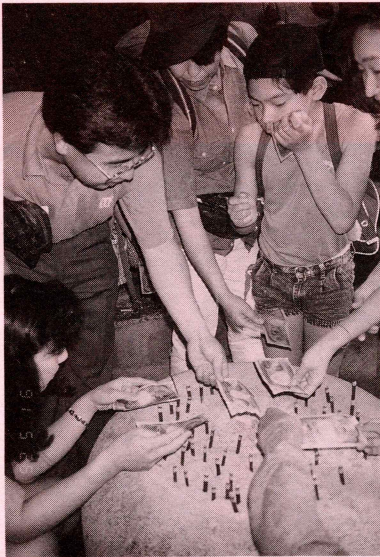
『プール』

夏は



孝行

青い鳥



お金持ちになれますように...

ある日のできごと

鎌倉にて

銭洗弁天でお金が集まるようにと、自分のこづかいを洗ったのん君は、その後ずっと手にお金を握ったままではいる。

「どうして？」

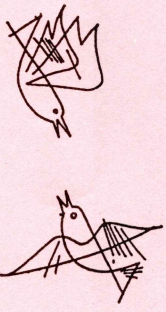
とたずねると、

「だってお金を洗うと増えるんですよ。いつになったら増えるのかなあ。」

たくさん増えるといいね。

・・・のん君の小さな手の中の一〇〇円玉、

一〇個にも一〇〇個にもなるといいね。





鏡の中のほく 小6 たか

『いちちょうのは』

浩介

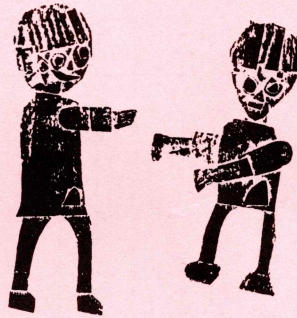
ひる休みに
いちちょうのはを
ひろった
まん中は
みどりなのに
まわりは
きいろだった

ゆらゆら
波の音が
聞こえる

冬は

しーんとして

さみしそう



ある午後、5・6人の子どもたちがすでに冷たくなってしまった鳥を袋に入れて持ってきました。公園の木の下で死んでいたのだそうです。その鳥は、かん高い声で「ヒーヨ・ヒーヨ」と鳴いているヒヨドリでした。

「ヒーヨ・ド・リかあ。かわいい顔してる。」
「かわいそうだね。」
「病気だったのかなあ。」
「お墓つくろうよ。」
「ネコがあんまり通らないところがいいよ。」
「深く掘ればだいじょうぶだよ。」
こうなると、もう私たち大人の出る幕はありません。あつという間にヒヨドリのお墓ができあがりました。

「あのさあ、聖友学園に青い鳥が来るといいよね。」
そう、しあわせを運ぶ青い鳥。私のところにも来ておくれ！
「青い鳥ってさあ、食ったらきつとうまいよね。」

青い鳥さーん。誰も食ったりしないからさ、みんないい子にしてるからさ、聖友学園にもしあわせを運んで来ておくれ！

「ふわふわ」は子どもたちのコーナ―です。子どもたちの素顔やたぐさの声を紹介するたのしいコーナーにしたいと考えています。

このゆびとまれ

—感謝しています ボランティアの皆さん—

第一号に引き続き、このコーナーではボランティアの方々のご奉仕の状況をご紹介しますが、今回は、趣味と学習の二つの分野の活動状況です。

◇ピアノ

「ポロロン・ポロポロリン」と、時々、ホールからピアノの音がもれてきます。何人かで代わるがわるピアノを弾きながらワイワイガヤガヤ楽しそうな表情で練習している姿が印象的です。月2回の練習日になると、朝からソワソワしている子どもも居り、学校から帰ってきて「ピアノの先生いらしてよ。」の職員の言葉に一目散。ランドセルを放り投げホールに飛んでいきます。特にはるみちゃんやみはるちゃんは毎日のようにホールにこもって練習に明け暮れています。将来は、音楽の先生かな？



◇学習

晴男君は小学校五年生。木曜日の夕食後になると学習用具片手に玄関でウロウロ：「お姉さんまだかなあし。」と、週に一回勉強を教えて下さるお姉さんを待っています。「こんばんはー」とお姉さん。満面笑顔で迎える晴男君。……「今日これやったよ、大きな丸つけてもらったよ」「何だかむずかしくて……」など、学習を終えたあとの表情は様々です。現在、学園では十四名の学習ボランティアの方々に学令児十五名の指導をお願いしております。

学習に限らず、ボランティアの皆様方に、活動を通じて子どもたちと触れ合いを持っていただくことで、子どもたちが喜びを感じ、感謝の気持ちを育むうえに大変に役立つっております。そして、将来社会人として自立したとき、思いやりや慈しみの心を持って呉れるものと信じております。

皆様、今後共よろしくお願い致します。



「このゆびとまれ」のコーナーではボランティアの皆様の活動を紹介していきたいと思っております。現在の社会情勢は目まぐるしく推移しており、それに伴ない子どもたちのニーズも様々に変化してきております。今後共、地域の皆様のお力を様々な形でお借りしたいと思っております。ご理解とご協力をお願い致します。

店自慢コーナー

おみせやさん

(有) 越前屋米店



代表取締役

古屋敷 邦雄

社名の示す通り、

先々が越前の国
(今の福井県坂井

郡)出身で、大正の末高田馬場で開業。しかし間もなく関東大地震に遭い、杉並の当地で再開業致しました。大正から三つの時代、又私で三代と永年に渡りご支援いただき地域社会で活躍できたのも、お客様あってのことと思います。先年六十周年記念を行ない、その後「越前会」というお客様だけの会を創り、親睦会・研究会・講習会・毎年正月の観劇旅行会などの開催や、「ふれあい」という名の機関紙の発行を行なっています。店内では「低温倉庫」を早くから設備し、精米等を倉庫内で行な

い適切な温度・湿度のもと、正しい品質管理を守っています。

また北海道から沖縄まで米の宅急便があり、遠くからみえるお客様もあります。

今後もお客様本位の営業を心がけてまいりたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

杉並区阿佐谷北3-12-10

越前屋ビル1F

電話 三三三九一三一二七

三三三八一七四九一

FAX 三三三九一三三九一

社員 五名

創業 六十六年

年間売上 四億五千万円

支店 ファミリーマート

阿佐谷北店内

😊 学園からひとこと

学園(2才半~18才まで50名)では、夕食で炊く米は4・5kg(一人平均ごはん一杯半)。大好物のカレーライスの時はその一・五倍の量をペロリ!日本人の米離れなど信じられないこと。これからもおいしいお米をお願いします。



学園行事より

お正月

学園の子ども達のうち、帰省できる者は保護者の元へ一時帰省しますが、毎年10名前後のこども達が残り、学園でお正月を過ごします。今年も8名のこども達と、卒園して巣立って行ったお兄さん(おじさん?)達が、学園に泊まりに帰って来て、初もうでに行ったり、トランプをしたりして普段とは別の賑やかさがありました。卒園生から、結婚の報告や出産の報告など聞かされ、職員にとって心なむひとときでもあるのです。



かきぞめ



卒園生と一緒におせちでお祝い

学園の設備をお貸しします。

地域における児童の健全育成の推進を目的とする会合や催しに、当学園の会議室（15/20名程度収容）ホール、その他（ヤキソバ、タコ焼、かき氷の機械など）をお貸しします。

ご利用を希望なさる方は左記へご連絡下さい。

問い合わせ先

聖友学園 03(3338) 1844

皆様の寄稿を待っています。

当紙に地域のお店の皆様に参加していただくコーナーを設けております。

「こんな楽しいお店です」

「当店自慢のこの一品！」

など紹介されてはいかがでしょう。掲載を希望される方は左記へご連絡下さい。

問い合わせ先

聖友学園 03(3338) 1844

ありがとうございます。

今年度も次の皆様方よりたくさんのご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

(敬称略)

(平成3年10月/平成4年1月)

△寄付金▽

タカラクラブ・バースデーフレンド、稲田誠、白川みつ子、タカラクラブ、野口道桑原都、加賀田留治、中島和代、東京文化幼稚園母の会、大山真吾、東京都共同募金会、村井庸子

△寄贈物品▽

㈱サンリオ、石井みき、㈱コンフェクションナリーコトブキ、東鳩製菓㈱、㈱榮太楼総本舗、㈱太田商店、(有)大野屋総本店、㈱京屋、東京呉服専門店協同組合、㈱古川、全国クリーニング環境衛生同業組合連合会、文化放送クリンライフみのりの箱委員会、ジョンソン&ジョンソン㈱、毎日新聞東京社会事業団、岩崎元男、クラブ・デ・トラントウ、東京文化幼稚園母の会、キリンビール㈱、夢の応援団事務局、読売新聞社スターダストファクトリー、㈱北村製作所、梅林節子、虎岩梅夫、東京環境プラント㈱、㈱クラフト社、㈱野田屋お多幸、日本使いすてカイロ同業会、㈱ヨックモック、コナミ㈱、東穀協会、オオカワ・コーポレーション㈱

△招待▽

日産労連福祉基金事業部(ミュージカル)、(有)オフィス・アールデー(ローラースケート・ミュージカル)



編集後記

数年ぶりの大雪で大はしゃぎをし雪合戦で汗ビッシヨリ、翌日には数年ぶりの大地震に見舞われ冷汗タラタラ。その後流行したインフルエンザで、子ども、職員共ダウン。今度は何が起こるでしょう？

※学園のぴーち(桃の木)は、今が見頃です。